

家族との時間も大切に。



Message



Daisaku Kadokawa

門川 大作 | 京都市長

子育て支援で笑顔あふれるまちへ

私は、子どもや子育て家庭が「笑顔」に満ちていることが何よりも大切と考えています。家族で食卓を囲み、「今日はどんなことして遊んだの」。そんな会話から、保護者の皆様もたくさんのお話を学び、たくさんの笑顔をもたらさるのではないのでしょうか。

保護者の皆様、施設の先生方、地域の皆様、行政が手を携え、子どもたちに「京都で育ってよかった」と感じてもらえる笑顔あふれるまちづくりを、共に進めてまいりましょう。



Toshiyuki Shiomi

汐見 稔幸 | 東京大学名誉教授、日本保育学会会長
白梅学園大学名誉学長、全国保育士養成協議会会長
一般社団法人家族・保育デザイン研究所代表理事

愛してもらったと言ってもらえる家庭づくりを

アメリカの厚生省付属の発達研究所NICHDによる子どもの発達調査によると、幼い頃の保育の質が発達に影響を与えると同時に、家庭の方が保育園よりも強く子どもの育ちに影響を与えることが分かっています。子どもの育ちにとって、家庭でのふれあいが何よりも大切であるということが改めて明らかになってきていると言えるでしょう。

「私は、僕は、小さい頃いっぱい愛してもらった」と言ってもらえる家庭をぜひつくってほしいと思います。

子どもや子育てに「自分ごと」「みんなごと」として関わりましょう。

わたしたちは子どもや子育て世帯のため、幼児教育・保育の提供や放課後の居場所づくりなど切れ目のない取り組みをしてきましたが、こうした子育てを支え、子どもたちを健やかにはぐくむ取組を行政や施設だけで担うには限界があります。

さらに今後、保育士・児童館職員の業務負担が過剰になると長時間労働や人手不足が加速し、保育・教育の質が低下する可能性もあります。市民や地域団体はもとより、企業・関係団体・大学・NPOなど、あらゆる主体が「自分ごと」「みんなごと」として子どもの最善の利益を考慮する社会となるよう積極的に関わっていくことが不可欠であると考えます。

「幼児教育・保育の無償化」で我々が考えること。

明日より、幼児教育・保育の無償化が施行されます。対象のお子さまのおられるご家庭にとっては金銭面の不安が減るなどのメリットがある制度です。

「社会の宝」である大切な命、特に将来の発達をサポートする上で重要な乳幼児期を預かり、育み、保育し、教育するわたしたちは、更なる幼児教育・保育の質を確保し、児童の健全育成を推進するため、必要に応じた適切な利用を促すよう、保護者や関係団体とともに更に取り組んでいきます。特に、子どもの将来の発達をサポートするためには乳幼児期が重要であります。そして今、無償化を契機として、改めて子どもを中心に捉え、子どものために何が大事かということをご一緒に考えてみませんか？

家族との時間を大切に。

京都市からは「保育園等の利用は、就労や通勤等により、保育を必要とする理由に該当し、保育が必要となる時間に限られます。引き続き、土曜日などのお仕事が休みの日や、早めのお迎えが可能な日等は、ご家庭での保育にご協力いただきますようお願い申し上げます。」と呼びかけられています。

また、2019年4月より一部施行されている法案「働き方改革」は、働く人々が個々の事情に応じた多様な働き方を選択できるようにするものです。これは同時に働き方を変えることで、家庭で過ごす時間の大切さを示すものとも言えます。それぞれの働き方をもう一度見直し、**今まで以上に家庭で子どもと向き合う時間を大切にしてください。**

子どもをまんなかに、 児童館ではぐくむ家族の絆

児童館は小学生や中高生を対象とした取組の他にも、乳幼児クラブや季節ごとの行事など、乳幼児のおられるご家庭の子育てを支える幅広い様々な取組を行っています。児童館は子育ての喜びや悩みを分かち合える子育ての仲間づくりにも取り組んでいます。京都市内131館の児童館が行う楽しい行事やプログラムはきっと親子や家族の絆を深めることでしょう。ぜひお近くの児童館にお越しください。

子どもをまんなかに、家族の時間を大切に、私たち4団体は力を合わせて子育て支援に取り組めます。

